

日医ニュース

2026. 6. 20 No. 1553

日本医師会
Japan Medical Association

〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
電話 03-3946-2121(代)
FAX 03-3946-6295
E-mail www.info@po.med.or.jp
https://www.med.or.jp/

毎月2回 5日・20日発行 定価 2,400円/年(郵税共)



トピックス

- 全国医師会産業医部会連絡協議会 …… 2面
- 世界禁煙デーイベント …… 3面
- AIによるサイバー攻撃に関する情報共有と医療機関等におけるサイバーセキュリティ対策に関する厚生労働省との意見交換 …… 4面

いわゆる「善きサマリア人法」について考える公開シンポジウム

医療施設外での救護行為を巡る法的課題について 様々な立場から知見を共有

「いわゆる『善きサマリア人法』について考える公開シンポジウム『お医者さんはいませんか?』」が5月24日、日本医師会館大講堂で開催された。

当日は、医療施設外で急病人に遭遇した医療従事者や市民による救護行為を巡る法的課題について、法学、国民、立法といった様々な立場からの講演の他、参加者を変えた活発な討議が行われた。

本シンポジウムは、日本医師会医事法関係検討委員会において進められている救護者保護の法制化に関する議論等を広く共有するとともに、医療施設外で急病人に遭遇した医療従事者や市民による救護行為を巡る法的課題について、多様な立場から理解と検討を深めるために開催されたものである。



松本会長

当日は、渡辺弘司常任理事の司会によりシンポジウムは開会した。

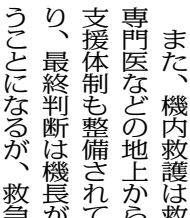
冒頭、あいさつした松本吉郎会長は、いわゆる「善きサマリア人法」について、善意の救護行為に法的責任を問わない仕組みであり、欧米では普及する一方、日本では未整備となっていること



森本島根県医師会長

引き続き、問題提起として、森本紀彦医事法関係検討委員会委員長/島根県医師会長が、航空機内等でのドクターコールについて、「専門外での対応不安や訴訟リスクへの懸念から、名乗り出ることためらう医師も多

いが、実際には責任主体は航空会社にあり、故意や重過失が無い限り個人が訴えられる可能性は極めて低く、民法698条の緊急事務管理により善意の救護行為は保護される」と強調した。



森本島根県医師会長

また、機内救護は救急専門医などの地上からの支援体制も整備されており、最終判断は機長が担うことになるが、救急現場での善意の行為を広く保護する法整備の必要性が学会等から提言されていることなどを報告。国民的合意形成と教育・広報を通じて理解を深め、その制度化を目指すべきとの考えを示した。

指定発言として、田名毅沖縄県医師会長は、JALドクターとしての自身の経験と他医師の事例



森村委員長

森村尚登日本救急医学会・日本賠償科学会合同委員会委員長は、同委員会が令和5年12月に公表した救護者保護の法制化に関する提言に基づき、善意の救護者保護の考え

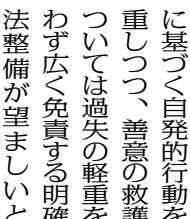
方を、欧米では他者支援のうち、作法的な善意の救護を保護対象とし、制度が進む一方、日本では緊急事務管理の存在や、立法事実の乏しさなどを理由に成立しなかったが、立法化を目指すとしても医師法上の



樋口東大名誉教授

樋口範雄東京大学名誉教授は法学の立場から、「善きサマリア人法」の背景と日本における意義を、聖書の寓話を踏まえて解説した。欧米では宗教教育を基盤に善意の救護が社会に浸透して

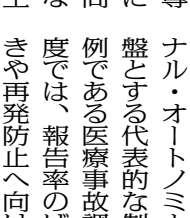
なく、利他性や連帯を基盤とする行為規範としての法整備を提案。「故意・重過失を除き責任を問わない免責規定を柱に、まずは医療従事者を対象とし、将来的には国民全体へ拡張することも考えられるのではないか」と指摘した。



隈本江戸川大名誉教授

隈本邦彦江戸川大学名誉教授は国民の立場から、「善きサマリア人法」の議論と医師のプロフェッショナル・オートノミーの関係性について詳説。医師は高い社会的

信頼を得ている一方、訴訟や批判への懸念から善意の行為でも萎縮する心理があると指摘した。他方で、実際には患者は医療の不確実性を一定程度受け入れておりとした上で、トラブルの要因は価値観の不一致や情報の共有不足が多いとし、インフォームド・コンセントを通じた意思決定を共有することや、患者の価値観を尊重する医療の意義を強調した。



古川参議院議員

また、プロフェッショナル・オートノミーを基盤とする代表的な制度の例である医療事故調査制度では、報告率のばらつきや再発防止に向けた教訓の未活用が課題となっていることから、法整備に加え、医師が倫理と自律性を発揮し、社会の信頼に応え続ける姿勢が求められるとして、その重要性を強く訴えた。

古川俊治参議院議員は立法の立場から、現行の緊急事務管理で対応可能とする見解があることに對して、契約の成立可能

性や立証責任の所在などから必ずしも十分な保護にはなっていないと指摘。機内で医師が対応した場合には訴訟リスクへの心理的負担に加え、状況によっては、医師賠償責任保険の適用外となる可能性や弁護士費用の自己負担、長時間対応による翌日の業務への影響など、実際には不利益も大きいと説明した。

一方で、議員立法として立法化を目指す場合には全政党の合意と明確な立法事実が必要となるが、免責拡大が救命率向上につながるという実証的根拠は十分ではなく、(1)救命率の差はAEDの使用や訓練経験の有無に強く依存する、(2)一般市民が対応しない理由には法的責任より技能不足

足が大きいのではないかと、(3)機内事案では医療従事者が対応の大半を占め、限られた資機材では救命効果にも一定の限界がある——などの分析結果もあることを提示。以上から、法整備には一定の心理的促進効果は期待できるものの、制度設計や効果の裏付けには課題が多く、慎重な検討と、積極的な救命措置が救命率を上げるというエビデンスの蓄積が不可欠であると結論付けた。

その後、総合討議が行われ、演者と参加者との間で、「訴訟リスクや保険のカバー範囲」「医学生・若手医師への教育の必要性」などについて、活発な議論が行われ、茂松茂人副会長の総括により閉会となった。

ご意見募集中!

日本医師会では、5月24日に開催した「いわゆる『善きサマリア人法』について考える公開シンポジウム」の様相を収録した動画を本会ホームページに6月中旬頃から掲載します。

ぜひ、ご覧いただき、動画の最後にありますフォームからご意見をお寄せ願います。



令和8年度全国医師会産業医部会連絡協議会

「行動する産業医の養成と

更なる活躍を目指して」をテーマに

令和8年度全国医師会産業医部会連絡協議会（主催：日本医師会、日本産業衛生学会、後援：厚生労働省、労働者健康安全機構、産業医科大学、産業医学振興財団、中央

労働災害防止協会）が5月22日、「行動する産業医の養成と更なる活躍を目指して」をテーマとして、日本医師会館大講堂にてWEB会議とのハイブリッド形式で開催され



諸富課長

中央情勢報告では諸富伸夫厚生労働省安全衛生部労働衛生課長が登壇。産業医の解任時等の所轄監督署長への報告を義務付け、監督署が把握できるようにするための改正省令が本年8月1日に施行されることを報告した。

また、労働安全衛生法の改正によって、労働者数50人未満の事業場に対してもストレスチェックの実施が義務化され、令和10年4月1日に施行されることに加え、小規模事業者が円滑に制度改正に対応できるよう、医師の面接指導の受け皿となる「地域産業保健センター」（地さんぽ）の体制拡充などの支援を講じるとした。

た。

協議会は松岡かおり常任理事の司会で開会し、松本吉郎会長と武林亨日本産業衛生学会理事長がビデオメッセージであいさつした。

事業主に対し、職場における治療と就業の両立を促進するため必要な措置を講じる努力義務を課す②当該措置の適切・有効な実施を図るための指針の根拠規定を整備するといった見直しが行われたことを紹介。

この他、令和8年度診療報酬改定で、療養・就業両立支援指導料の対象が「全疾患」に見直されたことなどに言及した。

その後、堀江正知産業医科大学学長を座長としてシンポジウムが行われた。



松岡常任理事

と訴えた。

（2）では、嘱託産業医の1年間の職務を取り上げ、①職場巡視②衛生委員会・安全衛生委員会の出席③健康診断結果の就業判定④高ストレス者への面接指導⑤長時間労働者への面接指導⑥治療と就業の両立支援の労働者からの健康相談——と解説した。

また、令和7年から「産業医未経験者を集めた会」を発足したことも言及。未経験者が参加しやすい場を提供することを第一として、経験者が研修単位の取得目的で参加できないように、産業医の研修単位を付与しない懇談会を開催しているとし、「リラックスできるような、実践的なスキルアップを図る」といったコンテンツを連絡協議会でどう発信するかに尽力した」と振り返った。

また、令和7年から「産業医未経験者を集めた会」を発足したことも言及。未経験者が参加しやすい場を提供することを第一として、経験者が研修単位の取得目的で参加できないように、産業医の研修単位を付与しない懇談会を開催しているとし、「リラックスできるような、実践的なスキルアップを図る」といったコンテンツを連絡協議会でどう発信するかに尽力した」と振り返った。

また、令和7年から「産業医未経験者を集めた会」を発足したことも言及。未経験者が参加しやすい場を提供することを第一として、経験者が研修単位の取得目的で参加できないように、産業医の研修単位を付与しない懇談会を開催しているとし、「リラックスできるような、実践的なスキルアップを図る」といったコンテンツを連絡協議会でどう発信するかに尽力した」と振り返った。

方を知ることや、組織図や配置図を入手することの他、作業管理・作業環境管理にも適切な助言を行う観点から、職場巡視を行う重要性も指摘。職場巡視のポイントとしては、職場責任者や衛生管理者等と共に巡視した結果を衛生委員会に報告し、事業場全体に適用することなどを挙げた。



森永佐賀県医師会副会長

続いて、森永幸二佐賀県医師会副会長が「産業医が『1社目の壁』を超えるために」と題して講演。「佐賀県における産業医活動現況調査」の結果に触れ、産業医未経験者に対して、「産業医として活動していない理由を調べたところ、『多忙』が35%、『契約方法が不明』が30%、『活動への不安』が必要を感じない」がそれぞれ9%、『その他』が17%であったことを紹介。

また、令和7年から「産業医未経験者を集めた会」を発足したことも言及。未経験者が参加しやすい場を提供することを第一として、経験者が研修単位の取得目的で参加できないように、産業医の研修単位を付与しない懇談会を開催しているとし、「リラックスできるような、実践的なスキルアップを図る」といったコンテンツを連絡協議会でどう発信するかに尽力した」と振り返った。

また、令和7年から「産業医未経験者を集めた会」を発足したことも言及。未経験者が参加しやすい場を提供することを第一として、経験者が研修単位の取得目的で参加できないように、産業医の研修単位を付与しない懇談会を開催しているとし、「リラックスできるような、実践的なスキルアップを図る」といったコンテンツを連絡協議会でどう発信するかに尽力した」と振り返った。

また、令和7年から「産業医未経験者を集めた会」を発足したことも言及。未経験者が参加しやすい場を提供することを第一として、経験者が研修単位の取得目的で参加できないように、産業医の研修単位を付与しない懇談会を開催しているとし、「リラックスできるような、実践的なスキルアップを図る」といったコンテンツを連絡協議会でどう発信するかに尽力した」と振り返った。



松本会長

ベースアップ評価料を届け出た医療機関の方へ

本年8月中に以下の実績報告書を地方厚生（支）局長に提出する必要があります

▶ **令和8年3月以前から継続して算定している場合**

①「令和7年度の賃金改善**実績**報告書」


②「令和8年度の賃金改善**中間**報告書」

※①と②では様式が異なりますのでご注意ください

▶ **令和8年6月から初めて算定した場合**

「令和8年度の賃金改善**中間**報告書」

報告書の様式や記載方法等の詳細は厚生労働省ホームページ「令和8年度診療報酬改定におけるベースアップ評価料等について」などをご参照ください。



厚生労働省
ホームページ

世界禁煙デーイベントを5月31日、神奈川県医師会の共催、日本禁煙学会、イエローグリーンキャンペーン全国連絡協議会の後援により、横浜市内のホテルで開催した。今回のイベントは全国各地で行われているイエ



ローグリーンキャンペーンに賛同する形で行ったもので、イエローグリーンという色には「受動喫煙をたくましくしない」という思いが込められている。当日はまず、抽選で当選した約30名の中学生の参加の下に、望月友美子日本禁煙学会理事／新町クリニック産業保健統括部長が(1)たばこは麻薬などと同じくらい依存性が高く、一度始めてしまうと簡単にやめることができない、(2)周囲の人やペットにまで影響が及ぶ——ことなどを解説。また、新型たばこについては、使用者が増えていることを問題視するとともに、「販売業者は若者をターゲットとして、様々な手段を使って、『新型たばこ』の使用は格

好良く、安全だ」と思わせようとしている」として、「今日得られた知識を基に、その畏れから自身の身を守ってほしい」と呼び掛けた。引き続き、第2回「すすめよう禁煙／川柳コンテスト」の表彰式が行われた。



点灯ボタンを押す笹生神奈川県医師会副会長(左)と松本会長

第2回 「すすめよう禁煙！ 川柳コンテスト」入選作品

(敬称略、雅号表記も含む。カッコ内の数字は応募時の年齢)



【一般部門】(高校生以上)

- ・日本医師会長賞
「AIに励ましもらいタバコ断つ」 さささん (57歳・男性)
- ・神奈川県医師会長賞
「スモーカー今日からパパはベビーカー」 金光颯太 (24歳・男性)
- ・審査員特別賞
「1カートン禁煙すれば米5kg」 むな (45歳・女性)
- ・朝日新聞社賞
「『喫煙所』探すタイパの悪さかな」 ひすみなおみ (59歳・女性)
- ・その他入選作品
「りくりゆうは好きだがふくりゆう煙はイヤ」 浜口直樹 (46歳・男性)
「おしゃぶりと電子タバコはよく似てる」 MAKO (62歳・女性)
「タバコやめ嫌われていた過去を知る」 あーちゃんおーちゃんのじいじ (71歳・男性)
「あっここにも命が5分落ちている」 黒木達行 (81歳・男性)
「ニコチンの積み立て口座黒い肺」 みかん (16歳・男性)
「吸いたいなそんな時には猫を吸う」 いぬ (31歳・女性)
「吸い殻が語る品格街の顔」 鈴木辰彦 (36歳・男性)
「タバコってハイコスト且つ肺リスク」 ガブリータ (49歳・女性)
「夜またか禁煙延期固まるよ (回文)」 野田充男 (68歳・男性)
「たばこ税命を削る2兆円」 吉田松陰 (76歳・男性)
「母子手帳パパ禁煙をありがと」 西田美恵子 (78歳・女性)

【ジュニア部門】(中学生以下)

- ・日本医師会長賞
「たばこやめおやつもふえてほくもニコ」 吉川智貴 (8歳・男性)
- ・神奈川県医師会長賞
「約束を灰にしてまで吸うのよね」 堀萌華 (13歳・女性)
- ・審査員特別賞
「ビジュいいじゃんきんえんはじめてからのパパ」 きらきらちゃん (7歳・女性)
- ・朝日新聞社賞
「たばこよりシールを買ってじいちゃん」 前田夏音 (7歳・女性)
- ・その他入選作品
「AIが代われないのだ禁煙は」 のんちゃん (12歳・女性)
「タバコ買う金があるなら花束を」 神林咲希 (14歳・女性)
「パパ禁煙わたし勉強がんばるね」 タバコ嫌いガール (13歳・女性)
「吸う君が未来のキミの火を消した」 サラップル (14歳・女性)
「禁煙を決めたじいじに金メダル」 脇坂凜太郎 (12歳・男性)



入賞者のみなさんと

本コンテストは、一人でも多くの方々にたばこの害について意識してもらうことを目的として、昨年引き続き「禁煙の重要性やたばこの害」をテーマとして行ったもので、今回は昨年の応募数を上回り、高校生以上の一般部門には3万7036作品、中学生以下のジュニア部門には1595作品の応募があった。表彰式の冒頭、あいさつを行った松本吉郎会長は「たばこは様々な病気の原因にもなり、百書あって一利なしだと指摘。参加者に対して『本日得られた、たばこの害に関する知識を周りの人々に伝え、伝えてほしい』と呼び掛けることも、今後も日本医師会として禁煙活動を推進していく意向を示した。続いてあいさつした笹生正人神奈川県医師会副会長(鈴木紳一郎神奈川県医師会長の代理出席)は、喫煙禁止地区が設けられるなど、快適なまちづくりが進められている横浜市の事例を紹介。県医師会でも禁煙推進活動は極めて重要な施策と考え、行政と連携し取り組みを進めていることを報告し、県医師会の活動への理解と協力を求めた。山本時子日本禁煙学会理事長は同学会の活動を紹介した上で、川柳コンテストについて言及。大変素晴らしい取り組みであり、今回の入賞作品が多くの人の禁煙を始めるきっかけとなると思う」と述べ、「参加者とも協力して、たばこのない世界を実現していきたい」との考えを示した。その後は、主催者から各部門の入賞者に表彰状と目録が授与された(入賞作品は左掲)。最後に、点灯式が行われ、松本会長と笹生神奈川県医師会副会長がボタンを押し、よこはまコスモワールド大観覧車及び横浜マリントワーをイエローグリーンにライトアップし、イベントは終了となった。

AIによるサイバー攻撃に関する情報共有と 医療機関等におけるサイバーセキュリティ対策に関する厚生労働省との意見交換 医療機関等における サイバーセキュリティ対策の課題等を共有

「AIによるサイバー攻撃に関する情報共有と医療機関等におけるサイバーセキュリティ対策に関する厚生労働省との意見交換」が5月22日、厚生労働省で開かれ、日本医師会からは黒瀬常任理事が出席した。

本意見交換会は、(一)本年4月にアンソロピック社より、「サイバーセキュリティ上の脆弱性検出に特化した、極めて高性能なAIモデル「クロード・ミュスト」が発表されたことを受け、国家サイバー統括室から医療等の重要インフラ15分野に



対して、AIを活用したサイバー攻撃への対応について注意喚起がなされ

た、(二)地域医療を担う医療機関等の機能の停止または低下は国民生活等及び経済活動に重大な影響を及ぼし得ることから、サイバーセキュリティの確保が求められる——ことを踏まえ、AIによるサイバー攻撃に関する情報及び医療機関におけるサイバーセキュリティ対策の課題等を共有するために行われたものである。

冒頭のあいさつで上野賢一郎厚労大臣は、「高性能AIの登場によってシステムの脆弱性の発見が従来よりも短時間で可能になる一方、サイバー攻撃の脅威が更に増大することが現実視されている」と指摘。「組織全体として実効性のある対策を進めるためには、現場任せではなく、経営層にも深い理解と主体的な関与が不可欠」と強調するとともに、「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」の内容を確実に実施するよう、各医療機関に

対する周知への協力を求めた。

続いて、厚労省から①サイバーセキュリティ対策パッケージ「Project VITAL Shield」を踏まえ、重要インフラ事業者等やソフトウェア・ベンダーに注意喚起を行った②経済安全保障推進法に基づく基幹インフラ制度に医療分野を追加することが現在国会で審議されている(6月10日に法案成立)③多くの医療機関で管理が困難となっている外部接続点の維持管理体制づくり等を支援しているが、医療機関等には「経営層の関与と意思決定体制の確立」「インシデント対応体制と教育・訓練」「リスク管理・脆弱性対策」「ランサムウェア対策」「サプライチェーン対策とBCP(事業継続計画)の確保」に取り組みよう呼び掛けている——こと等が説明された。

「サイバーセキュリティ対策の強化に向けた国の支援を要請」

その後の意見交換で黒瀬常任理事は、医療現場のサイバーセキュリティ対策の重要性に理解を示し、「従来の対策に加え、AIを用いたサイバー攻撃という国民の生命と健康に対する重大な脅威への対応を強化したい」と語った。

さらに、「医療機関は、大規模な病院といえど

も、他の重要インフラ分野と比べて小規模な事業者でしかない」と強調。「極めて脆弱な経営財政基盤の上に成り立っており、サイバーセキュリティの知識・人材・財源の全てが不足しているため、有効かつ十分な対策の実施は極めて困難」と述べ、共助と公助を組み合わせた実効性のある対応体制の確立が重要だとした。

共助に関しては、2022年に創設した「日本医師会サイバーセキュリティ支援制度」について

「ソフトウェアー・ベンダーは既に注意喚起を行っているが、対応状況の確認はユーザー自身で行っていただきたい」との回答があった。

その他、当日は「財源や専門人材について支援してほしい」「特に中小や自治体の医療機関では各自でセキュリティ対策を実施することが難しいため、プラットフォームのようなものを作り、まとめて対応いただきたい」等の意見も出された。

野と比べて小規模な事業者でしかない」と強調。公助に関しては、国の取り組みに言及するとともに、「今後はAIを活用したサイバー攻撃への対応を始め、医療現場のサイバーセキュリティ対策は加速度的に複雑化・高度化していく」と指摘。全ての医療機関が国民に安心・安全な医療を提供できるよう、より一層の支援が必要だとした上で、「サイバーセキュリティ対策の強化は医療機関の自己責任ではなく、

我が国の地域医療を守るための社会インフラ投資として行うべきである。国は医療DXと同等以上の優先度で、システム開発や恒久的な財政支援、人材育成、電子カルテの技術対応、さらには緊急時の対応に関する体制整備を進めてほしい」と主張した。

また、同常任理事は周辺システムや関連ベンダーに対するサイバーセキュリティ対策の周知徹底方法について質問。国家サイバー統括室からは

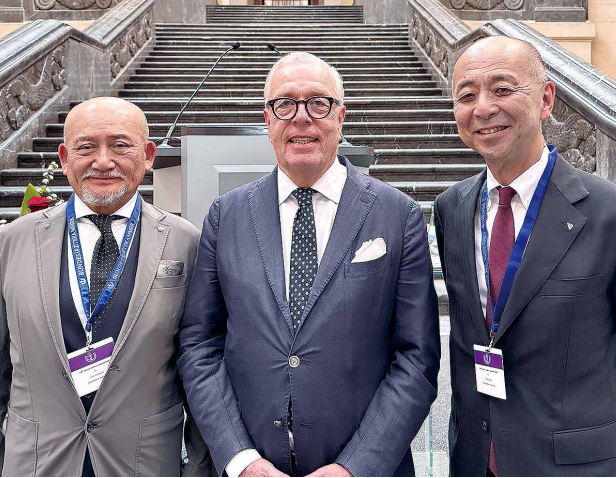
「ソフトウェアー・ベンダーは既に注意喚起を行っているが、対応状況の確認はユーザー自身で行っていただきたい」との回答があった。

その他、当日は「財源や専門人材について支援してほしい」「特に中小や自治体の医療機関では各自でセキュリティ対策を実施することが難しいため、プラットフォームのようなものを作り、まとめて対応いただきたい」等の意見も出された。

「ソフトウェアー・ベンダーは既に注意喚起を行っているが、対応状況の確認はユーザー自身で行っていただきたい」との回答があった。

その他、当日は「財源や専門人材について支援してほしい」「特に中小や自治体の医療機関では各自でセキュリティ対策を実施することが難しいため、プラットフォームのようなものを作り、まとめて対応いただきたい」等の意見も出された。

角田副会長、濱口常任理事 2026年ドイツ医師会年次総会に出席



ラインハルト会長（中央）と

第130回ドイツ医師会年次総会がニダーザクセン州のハノーファーで開催され、ドイツ医師

の医師会からドイツ医師会代議員(250名)等、代表者に加え、世界医師会や約40医師会から約70名の海外賓客が参加した。12日の開会式典では、クラウス・ラインハルトドイツ医師会長とニナ・ワーケンドイツ連邦保健大臣が演説を行った。その中では、ドイツの公的医療保険における赤字を埋めるため政府が閣議決定した医療制度改革案が取り上げられ、ドイツ医師会としてはこの改革案を保留しており、保健大臣、財務大臣を含む連邦政府に対して、医療従事者と協力して実現

可能な解決策を策定するよう要望した。

総会では、「依存症医療」「医療システムのデジタル化」「医師養成の強化」等のテーマについて議論が行われた。

角田副会長、濱口常任理事は今回のドイツ訪問に併せ、ドイツ連邦保険医協会と面談を行った。

情報システム課 03-3942-6483
医賠責対策課 03-3942-6135

総会には、ドイツ全土

「ソフトウェアー・ベンダーは既に注意喚起を行っているが、対応状況の確認はユーザー自身で行っていただきたい」との回答があった。

「ソフトウェアー・ベンダーは既に注意喚起を行っているが、対応状況の確認はユーザー自身で行っていただきたい」との回答があった。

「ソフトウェアー・ベンダーは既に注意喚起を行っているが、対応状況の確認はユーザー自身で行っていただきたい」との回答があった。

日本医師会
総務課 03-3942-6481/03-3942-6477・人事課 03-3942-6493・施設課 03-3942-7027・国際課 03-3942-6489・医療保険課 03-3942-6490・介護保険課 03-3942-6491・広報課 03-3942-6483
地域医療課 03-3942-7050
地域医療課 03-3942-6137・医療技術課 03-3942-6478
日本准看護師推進センター 03-3942-7276
医事法・医療安全課 03-3942-6484
03-3942-6506
医賠責対策課 03-3942-6135

令和6・7年度 会内委員会答申・報告書

(全文は日本医師会ホームページ「メンバーズルーム」に掲載)

有床診療所委員会答申

「新たな地域医療構想等を見据えた、有床診療所の役割について」

有床診療所委員会は会長諮問「新たな地域医療構想等を見据えた、有床診療所の役割について」に対する答申を取りまとめ、担当の松岡孝典常任理事同席の下、河野雅行委員長（宮崎県医師会）から松本吉郎会長に提出した。

答申は「はじめに」第1章「新たな地域医療構想において求められる有床診療所のあり方について」「第2章 人口規模別にみた有床診療所の現状と特性について」「第3章 経営に関する現状と課題」「第4章 有床診療所を支える施策のありき姿」「全体を通してのまとめ」から成っている。「第1章」では有床診療所について、(1)地域の中で「治す」かつ「治し支える」医療提供が可能である、(2)患者が急性期から終末期まで一貫したケアを受けることのできる柔軟性を有している、(3)機能分化が進む病院では提供できない「地域医療のはざまを埋める機能」を発揮できることなどに言及し、今後の地域医療構想においては地域住民に必要とされる医療機能をいかに持続可能な形で確保していくかが大きな課題となるが、有床診療所が持つ地域性・専門性・柔軟性を最大限に生かすことが医療資源の効率的な活用につながるだけでなく、安心して暮らせる地域社会を実現するためにも欠かせないとしている。

「第2章」では、大都市、地方都市、人口の少ない地域ごとに有床診療所の現状並びに検討すべき課題などについて触れられている。

「第3章」では、物価・人件費・委託費の上昇、設備の老朽化が有床診療所に重くのしかかっている点を指摘。医療体制に空白が生じる事態を避け



日医君の立体シールを抽選で 300名の方にプレゼント!!

日本医師会の公式キャラクターである日医君につきましては、これまで様々なグッズ（クリアファイル、付箋、マスコットボールペン、ぬいぐるみキーホルダー等）を販売しており、多くの皆様にご活用いただいています。

このほど、新たなグッズとして、立体シールが完成したことを記念して、抽選で300名の方にプレゼントすることになりました。ご希望の方は下記の要領に従って、奮ってご応募願います。

なお、立体シールにつきましては、今回のプレゼント企画終了後に、1枚500円で販売も開始する予定としております。

※日本医師会員の先生方は1会員/1医療機関最大10枚まで（送料は無料）。

※一般の方は一人1枚まで（送料は自己負担）。



◆**応募方法**：右記の二次元コードを読み取り、日本医師会LINE公式アカウントを友だち追加の上（既に友だち追加していただいている方は応募フォームに飛びます）、応募フォームに必要事項を明記し、ご応募願います。



◆**応募締切**：2026年7月20日（月・祝）午後11時59分まで

◆**問い合わせ先**：日本医師会広報課 ☎ kouhou@po.med.or.jp

「第4章」では、有床診療所の入院料の大幅な引き上げ、看護配置加算の強化や税制改革に加え、

「第5章」では、有床診療所の入院収益が赤字となる構造があるとし、経営が成り立つ仕組みの検討を求めている。

また、有床診療所が病床を維持することが困難な背景には、看護職員確保

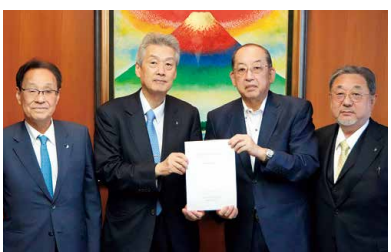
医業経営検討委員会答申

「医業経営の安定化における諸課題」

「第1章」では、諸要因とその対応として、「II 物件費に関する課題」中에서도特に高額な抗がん剤の動向について言及し、医療側もコスト意識、経営意識を持って医療に携わるべきであるとしている。

また、「コスト意識の啓発」については、「医学生への医療制度や保険診療に関する教育は重要であるが、軽視されがちである」と指摘した上で、医学生や研修医が医療保険制度を理解し、将来の医療現場で適切な判断を下すことができるようになるための教育内容について提言している。

「III 周辺領域に関する課題」では、「チェーンドラッグストア等の利潤の問題」を取り上げ、チェーンドラッグストアが膨大な利益を上げていることが、病院における薬剤師不足の一因だとしてい

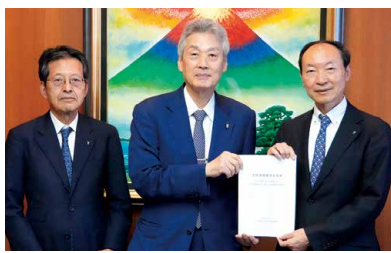


学校保健委員会答申

「社会情勢の変容を踏まえた学校健康診断に関する諸課題の再検討」

学校保健委員会はこのほど、会長諮問「社会情勢の変容を踏まえた学校健康診断に関する諸課題の再検討」に対する答申を取りまとめ、担当の渡辺弘司常任理事同席の下、加藤智米委員長（山口県医師会）から松本吉郎会長に提出した。

本答申は会長諮問を受けて、委員会の下に、(1)学校健康診断、(2)メ



その内容は「I. 答申の要旨」「II. 学校健康診断に関する提言（概要）」「III. 児童生徒のメンタルヘルスに関する提言（概要）」「IV. 総括」で構成されている。

IIでは学校健康診断について、学校医不足の地域に配慮し、6月30日という期日にこだわらず、年度内のできるだけ早い時期の実施を可能とする案や、十分に医師を確保できない場合に限りは重点的に健診を行う学年を定め、少ない専門医を効率的に活用し、健診の質

お知らせ

本紙10～13面として、日本健康・栄養食品協会が主催する研究会が取りまとめたリーフレット「熱中症になった時は個別評価型病者用食品 経口補水液」を同梱しています。ぜひ、ご活用ください。

日本医師会・全国医師協同組合連合会 第8回全国医師ゴルフ選手権大会を開催



大会2連覇を果たした兵庫県医師会チーム



個人戦初優勝の堤氏 (右)

第8回全国医師ゴルフ選手権大会を、日本医師会と全国医師協同組合連合会との共催により、5月3、4の両日、岐阜県関市内で開催した。

本大会は、ゴルフ競技を通じて会員相互の親睦・研鑽を図ることを目的として開催したもので、各都道府県医師会代表選手によるチャンピオン戦(団体戦・個人戦)、任意の同好者による一般戦を行った。

日本医師会が主催するチャンピオン戦団体戦では兵庫県医師会チーム(外山裕志氏・大門篤史氏)が大会2連覇を果たし、個人戦では滋賀県医師会の堤聖吾氏が初優勝を飾った。

チャンピオン戦には40都道府県から79名の代表選手が、一般戦には36名が出場した。

懸念された雨も大会当日朝にはやみ、好天の下、松本吉郎会長による開会宣言に続き、競技が行われた。

読み聞かせ

県外に暮らす次女から「長女が1歳になって読み聞かせをするから、昔読んでくれた青虫の絵本とかを何冊か送って」と連絡があった。

確かに幼い頃に読み聞かせをした記憶はある。「早くもまあ、そんなに小さい時のことを覚えていたものだ」と感じしながら、本棚から何冊かの絵本を引っ張り出した。



「プズム」は、幼稚園や小学校で「プズム」の絵本を見ることがある。我ながら「この頃は真面目に父親をしてきたな」と感心する。幼稚園児や小学生が読む

「プズム」は、幼稚園や小学校で「プズム」の絵本を見ることがある。我ながら「この頃は真面目に父親をしてきたな」と感心する。幼稚園児や小学生が読む

「プズム」は、幼稚園や小学校で「プズム」の絵本を見ることがある。我ながら「この頃は真面目に父親をしてきたな」と感心する。幼稚園児や小学生が読む

第10回
生命を見つめる
いのち フォト&エッセー

作品募集中
賞金は最大
30万円


医療従事者も応募可能。奮ってご応募願います。

応募締切 **2026年10月2日(金)必着**

フォト部門 エッセー部門

日本医師会では、第10回生命を見つめるフォト&エッセーの作品募集を始めました。
医療従事者も応募可能となっておりますので、ぜひ、ご応募願います(応募規定などの詳細は公式ホームページをご参照下さい)。

日本医師会広報課 公式ホームページ



南から北から

令和7年度 表彰作品発表

本紙の「南から北から」のコーナーでは、都道府県医師会並びに郡市区等医師会の会報誌に収載されているエッセー等の中からユーモアあふれる作品を選び、掲載している。


このたび、会内の広報委員会において、令和7年度に掲載された49作品の中から最優秀作品を選考し、息子の幼稚園行事「粘土で恐竜を作ろう」をきっかけに、粘土での工作に苦戦した小学校時代の苦い記憶を思い出す様子をコミカルに描いた林浩之先生の「ね・ね・粘土」（本誌第1527号掲載）、患者の勧めから俳句に没頭するようになり、日々の暮らしが俳句であふれる「病」にかかってしまった自身の日常をつづった木村寛伸先生の「俳句病」（本誌第1538号掲載）の2作品が選ばれた。今号では、その作品を再掲する。

なお、2名の先生方には、広報担当の黒瀬巖常任理事名による表彰状を贈呈する。

愛知県医報
名古屋第1520号より

ね・ね・粘土

林 浩之



開業して間もない秋に、息子が通う幼稚園から、親子の工作教室という案内が届きました。「粘土で恐竜を作ろう」というタイトルを見た途端、すっかり忘れられていた忌まわしい記憶が私の頭によみがえってきました。

私は、粘土の授業はあまり好きではありませんでした。粘土には「ひまし油」が入っていて、作業の後に手に油が付くのが嫌だったのです。どれだ

り組んでいるゾウやライオンなどに比べると地味な動物でしたが、それなりの存在感を出すことはできていたのではないかと思っていました。

作業が進んだところで、先生がアドバイスのために教室内を回りました。私には「もう少し躍動感を出してみよう」と言われました。これが悲劇の始まりでした。まず、羽を伸ばそうと試みましたが、大きく広げると粘土の重みで羽が下りてしまふので、ほんの少しです。しかしこれでは、あまり大差がありません。そこで鶏を立てさせてみようと考え、足を作りました。体を支えるため少し太めの足にしたのですが、やはり二本足で立った鶏は不安定でした。

け手洗いしても、給食の時に手には匂いが残ってしまうのも不快でした。またカバンの中に放置しておくと、いつの間にか油が勝手ににじみ出てきて、周りのノートや教科書が汚れることもあり、できれば持ち運びをしたくはありませんでした。

小学4年生の時、粘土細工の課題は動物でした。あれこれと悩み、皆とアイデアが重ならないよう鶏に決めました。図鑑の写真を参考にしながら、オスの鶏が前を向いて座っている姿を作っていました。他の子が取

授業の残り時間が15分になり、先生から作業終了の合図がありました。ここからは、皆の作品を鑑賞して感想を述べ合うのです。無傷だったキリンは、とても好評でした。


その横に並んだ私の鶏は、顔が変形し鶏冠が折れ、体には床のゴミがたぐさん付いていました。立っている姿も表現できなかったもので、体は変な方向を向いてしゃがみ込み、生命感があふれる作品とは懸け離れたものになりました。隣の子は何度も謝っていました。偶発的な出来事で粘土の特性でもありませんから、仕方がありません。先生も事情を知っていたので、また頑張ろうと励めてくれました。しかし私は、次に作る機会があるなら絶対に四つ足動物にしようと思いつきました。

気が付けば、私は重度の「俳句病」にかかっていました。熱もせきも無いが、病識はある。テレビのセリフに季語をのせる。スパーの陳列が一句に見える。夜中に一句ひらめいて、目が覚める。発症の原因は、ある患

石川県
金沢市医師会
第633号より

俳句病

木村 寛伸



その後粘土とは縁が切れていたのですが、幼稚園行事であり家族の共同作業ですから、参加し

（一部省略）

なくてはいけません。覚悟を決め幼稚園へ行くのは紙粘土でした。軽く使えば、自然乾燥により硬くなるので、固まったら安心して別の作業ができます。また今回は、あらかじめ針金やひもで芯を作ってから粘土を盛り付けていくので、二本足でも倒れる心配はありません。しかしそれでも私は、過去の苦い経験を踏まえて、息子には四つ足恐竜トリケラトプスを作るように勧めました。半日かけて完成した恐竜は、20年経った今でも形を保ち、納戸の奥に保存されています。

一緒に恐竜を作った息子は、春に臨床研修を終え専攻医になります。粘土作品を見つめながら時の移ろいを感じ、これから経験する様々な医療業務の中で、四つ足恐竜のように力強く邁進してほしいと願うところです。

「先生、俳句、どうですか？」

当初私は、バラエティ番組「プレバト」を録画して見る程度の軽症者だった。しかし、誘われ

て句会デビューしたその日から、病状は急速に悪化。帰宅後、「顔洗って出直してこいって言われた」と家族に話すと、「俳句ってそんな体育会系なん？」と素朴なツッコミが返ってきた。「うん、ちょっとだけね」と苦笑い。

俳句とは四季を詠むもの——そんな固定観念は、「うんこ」を詠む俳人の存在を知った瞬間、粉々に砕けた。金子兜太の一句。

長寿の母 うんこのよ
うに われを産みぬ

あまりの強烈さに「五七五の呪詛か？」と身構えたが、読み返すほど、母への深いまなざしがにじみ出ていて心を揺さぶられた。俳句って、こんなに自由でいいのか？ いや、いいらしい。しかも季語が無くていい。現代俳句協会は「俳諧自由」。妖怪のような季語に縛られなくてもいいのだ。

「先生、俳句、どうですか？」

当初私は、バラエティ番組「プレバト」を録画して見る程度の軽症者だった。しかし、誘われ

して日々の暮らしは、すっかり五七五に侵食されていった。診察メモの隅に季語、待合室の貼り紙の横に俳句。運転中に一句思い付いて、信号待ちでメモ。スマホのメモ欄は、ちょっとした句集と化していた。

この病の特徴は、「孤独に詠むくせに、妙に共感を求めがち」など。句会に出すと、「これはわかるよ」と誰かがニヤリと笑う。季語が、まるで共通言語のように働くのだ。呼吸を合わせるように五七五でつながると、ちょっといい気分になってしまふ。病状が安定してきた今は、「一個の声」をしみじみと、時にコミカルに詠むようにしている。どうせなら、笑って読まれたい。

診察も、句作も、実はあまり変わらない。相手の中にある何かと、そっと向き合う。その感触がうまく言葉になった時、今日という一日が、ほんの少しマシになる。

秋灯や カルテの余白
老いのこす

……余白に何かを書きたくなる衝動、俳人あるある。もう完治は望めない。けれど、焦って治す必要もない。この「俳句病」とうまく付き合いながら、のんびり暮らしていこうと思っている。診察室にも、待合室にも、五七五の息遣いが、そこはかとなく響いている。

「先生、俳句、どうですか？」

当初私は、バラエティ番組「プレバト」を録画して見る程度の軽症者だった。しかし、誘われ

勤務医のページ

令和8年度都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会

「勤務医の医師会活動へのさらなる参画について」をメインテーマに開催



定であることをそれぞれ報告した。

協議

(1) 勤務医委員会答申の内容紹介

一宮仁日本医師会勤務医委員会委員長／福岡県医師会副会長は、令和6・7年度答申について、その冒頭では、「医師会の発言力は組織率に比例し、勤務医の参画なくして『医師の総意』は成立しない」と強調していることを説明。その上で、勤務医の医師会加入率向上には、①プッシュ型情報発信への転換・医学生や研修医との段階的関与モデル構築②会費負担軽減・意見集約と反映プロセスの可視化などが求められているとした。

また、今期、日本医師会病院委員会と初の合同委員会を開催したことに触れ、「女性医師・若手医師への支援体制構築」「勤務医の医療経営への参画」が重要と総括したことを報告した。

(2) 新たな地域医療構想を巡る動き

堤雅宣厚生労働省医政局地域医療計画課地域医療構想推進室長は、新たな地域医療構想について、「入院医療中心から外来・在宅医療」「介護連携を含むべき医療提供体制の実現」②治す

医療」と「治し支える医療」の役割分担の明確化等が求められているとした他、具体的な施策として、構想区域の見直しや医療機関機能の新設、病床機能報告・必要病床数の見直し、医療機関の連携・再編・集約化、新たな地域医療構想に関する協議の場の再設計等を行う必要があるとした。

また、スケジュールについては、2026年早期に厚労省が作成する都道府県向けのガイドラインを基に、都道府県は2028年度までに地域医療構想を策定する必要がある、2035年度をめどに一定の成果の確保を目指しているとした。

医師会組織強化に向けた取り組み

(1) 医師会を「知る」から「つながる」へ 若手世代とともに進める組織強化

杉本圭相大府医師会理事は、若手勤務医にフォーカスした組織強化活動の推進とその内容について報告。「自分には関係が無い」「医師会に入るメリットはあるのか」等と考えている勤務医に

対して、①段階的な関与モデルの構築②医師会活動によるキャリア形成の実利を発信③対話型・参加型手法の採用——といった取り組みを進め、その際には「医師会を知っ



勤務医のひろば 対話型AIケアボットによる がん患者の心理的支援

福井県済生会病院院長補佐・顧問 宗本義則

2024年3月に、福井工業大学AI&IoTセンター長の芥子育雄教授より、がん患者の心のケアと情報提供を目的とした対話型ケアボットの開発をしたいという相談

を受けた。がん委員会の治療相談支援の部長を務めていたこともあり、話を進めた。当時は働き方改革が大きなテーマとなっており、AIやIoTを活用して患者さんを支えることで、医療従事者の負担軽減につなげたという思いがあった。医療従事者、一般市民、外来患者の順に進めた。同時に「生成AI×コード」「LLM」「Ethical AI」の三つのグループが活動した。小生は技術・倫理・現場の視点から、「Ethical AI」のメンバーとして倫理・安全性ガイドラインの策定、患者データの保護、緊急時の対応等について検討し

た。このケアボットは、音声認識・合成に「Azure Speech Service」、対話エンジンに「Azure OpenAI GPT-4o」を、アバター表示には「veed」によるリアルタイム表情連動を使用した。医療情報連携として、がん情報サービスや院内クリニカルパス情報を統合した。まず共感し、その後情報報を伝える設計とし、心理学的なアプローチを組み込んだ。信頼感を上げ不安を取り除く意味で、アバターを若い女性から小生のモデルに変更した。高齢患者の音声認識（ゆっくり話すと途切れる問題、医療用語のフィードバック（自傷に関する言葉を不適切ワードとしてブロック）、共感と情報提供のバランス調整などを行った。結果として76%の患者さんが「医師には話しにくいことをAIには相談できた」と回答。POMS2（気分や情動の状態を評価する心理検査）では五つの指標全てで統計的に有意な改善が確認され、特に尺度である「怒り」「抑うつ」の項目が軽減された。

(2) 大学医師会と都道府県医師会の協働 大分における五つの好事例

猪股雅史大分大学医学部医師会長は、勤務医にとって医師会が「何をやる組織なのか分りにくい」「勤務医の意見が十分に反映されていないのではなか」との意見があることに触れた上で、

①病院管理者・大学幹部への取り組み②若手へのキャリア支援の取り組み③若手への情報発信の取り組み④医学生・研修医へのアプローチ——等の事例を紹介し、

①では、大学医師会が県医師会及び行政と三位一体になり、連携を通じて地域医療介護総合確保基金の獲得を実現したことを報告した。

②では、県医師会が「大分県医学雑誌」を再創刊するなど、県内の若手医師の学術支援を積極的に推進しているとした

他、③では、40代未満の大学勤務医等若手医師への情報発信のために医師会報の活用他、大分県医師会勤務医部会「U-40 OITA」を結成し、若手勤務医支援と医師会入会促進の両立に努めているとした。

④では、医学部生が県療所で診療の見学や実習をしてもらっている他、医師会病院を始めとする16施設に滞在し、医療・介護・保健・福祉を学習してもらっている。地域医療の現場を理解する機会を設けていることを説明

また、大分の医療を支える人材の増加・育成に努めている他、若手医師の地域への派遣とキャリアパスの担保を同時に実現するため、大分県地域医療支援センターとの連携や、必要とされる分野における人材育成のための寄附講座の設置を実施していることを報告した。その後は活発な意見交換が行われ、協議会は終了となった。

～税優遇を活かして老後への備え～

国民年金基金

国民年金(老齢基礎年金)に上乗せする
終身を基本とする「公的な年金制度」です。

ポイント

3つの
税制
メリット

- 掛金全額が社会保険料控除の対象
- 受け取る年金は公的年金等控除が適用
- 遺族一時金は全額非課税

—不確実な将来に、今、備える—

ご加入条件

- 20歳以上60歳未満の国民年金第1号被保険者の方
- 60歳以上65歳未満で国民年金に任意加入している方

※主に、個人立診療所の医師・従業員・ご家族などとなります。
※日本医師会年金(医師年金)に加入している方もご加入できます。

全国国民年金基金

日本医師・従業員支部

☎0120-700-650

24h Web受付

HP上でも資料のご請求・シミュレーション・加入申出のお手続きができます!

医師支部 検索

日本医師・従業員支部は、「日本医師会」を設立母体とする日本医師・従業員国民年金基金が移行した医師・医療従事者のための職能型支部です。

2025.4